

研究課題名	周術期口腔機能管理が入院患者の誤嚥性肺炎の発症、および予後に与える効果についての多施設共同研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 特殊歯科・口腔外科 氏名 道脇幸博
研究期間	(西暦) 2017年12月 ～ 2020年3月
研究の意義・目的	<p>平成23年度の人口統計では、肺炎による死亡者数が脳卒中を抜いて第3位になった。高齢者では肺炎の罹患率が高いことが知られており、そのほとんどは誤嚥性肺炎である。国民医療費に占める割合も高く、70歳以上の誤嚥性肺炎患者の入院費用は年間4,450億円との報告もある。入院患者も高齢化しているため、入院中に誤嚥性肺炎(院内肺炎等)を併発することもまれではない。そのために原疾患の治療を中断して、肺炎の治療に当たるが、結果として原疾患の治療は遂行できず、長期臥床による低栄養やADLの低下等により、入院期間の延長、ひいては国民医療費の予想外の増加につながる。</p> <p>一方、口腔ケアには口腔や咽頭の清潔や機能賦活化の効果があり、誤嚥性肺炎の予防効果があることが知られている。しかし、そのことの社会的な意義はなお明らかにされていない。</p> <p>本研究では、医科の入院患者の誤嚥性肺炎予防に対する口腔ケアの効果を患者の視点、医療スタッフの視点、医療経済学の視点で実証することを目的とする。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>対象者 平成26年4月1日から平成30年3月31日までの間に武蔵野赤十字病院に入院記録のある患者のうち、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準の何れにも抵触しない研究対象者を対象とする。</p> <p>①選択基準 (1) 入院後に肺炎を併発した症例 (2) 入院後に肺炎を併発しなかった症例(対照群)</p> <p>②除外基準 (1) 本研究について本人の利用停止の申し出があった症例 (2) 入院時の主病名が肺炎であった症例 (3) 入院時にすでに肺炎を併発していた症例</p> <p>調査対象：医療記録とDPCデータ 調査期間：平成26年4月～平成30年3月</p>
<p>①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む)</p> <p>②利用し、又は提供する試料・情報の項目</p> <p>③利用する者の範囲</p> <p>④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称</p>	<p>①情報の利用目的 周術期口腔機能管理の普及度と意義を臨床疫学的ならびに医療経済学的に明らかにすることを目的とする。</p> <p>②-1情報の利用方法 データの収集に当たっては、予め匿名加工化処理を行った後、データベース化する。</p> <p>②-2情報の項目 年齢、性別、主病名、主病名ICD10コード、入院契機病名、入院契機病名ICD10コード、入院先診療科名、退院診療科名、入院日、退院日、死亡の有無、在院日数、術前日数、術後日数、医療資源を最も投入した傷病名などのDPCコード</p> <p>③利用する者の範囲 匿名化対応表は、研究代表者が責任を持って管理し、また、その使用を監督する。利用する者は、研究に関与する者だけとする。</p> <p>④情報の管理に責任を有する者 武蔵野赤十字病院 特殊歯科・口腔外科 道脇幸博</p>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問合わせ

問合せ先

〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1

武蔵野赤十字病院

所属 特殊歯科・口腔外科 氏名 道脇幸博

TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525